

1. はじめに

欧州有数のビジネススクールであるスイスの IMD（経営開発国際研究所）による 2002 年国際競争ランキングによると、日本は、49 カ国・地域中 30 位で、「日本は老化を自覚して気力を失った中年の危機」と診断されていた。特に、日本の民間ビジネス環境は「起業家精神」、「株主の権利や責任」などで最下位。政府部門でも「大学教育と経済ニーズ」、「外国人労働者の雇用に関する法律」などで評価が低かった。米国は「起業家精神」、「株式市場の厚み」、「通信インフラ」などで幅広く評価を受けて総合首位をキープしている。今後日本が再生していくには、将来の日本を支える若者が、旺盛な「起業家精神」のもと、日本の将来に希望を抱き、ファイトを沸かすかという点が重要なポイントであり、大学教育においても、真剣に取り上げられるべきテーマと考える。

起業から企業への発展プロセスをあげると、「高い志」→「独立」→「ビジネスプランニング」→「資金調達・パートナー集め」→「会社設立」→「新製品・サービス開発」→「販路開拓」→「成長・利益」→「株式公開」となり、特にこれから興そうとする事業の青写真であり資金調達・パートナー集めの要となるビジネスプランニングまたはそれに類する名前で授業を実施している大学(学部)は全国で 10 に過ぎずない。また、ビジネスプランニングに関連する授業名であっても、ほとんどすべての大学がビジネスプラン策定そのものの教育に割いている時間は、半期または全期をとおして多くて 2、3 回（3 時間～4.5 時間）程度というのが大学の経営学部教育の実情である。この理由としては、「①学生はビジネスを知らず、教育しても実感が無く教える事が難しい」、「②ビジネスの基本を教えるだけでコース体系が一杯で、かつ教員側の負担が重く、応用分野(ビジネスプランニング)まで教える時間がない」、「③教える側が、実際の企業のビジネスプランを作成したことがないため、個別内容の深いところでは現実味を持った教育ができにくい」、「④各社、各事業によりビジネスプランが異なるので、普遍化が難しい。また、教える側も実体験に乏しいため、噛み砕いた説明が難しい」などがあげられる。青山学院大学の AML II(Aoyama Media Lab. II)プロジェクト（バーチャルユニバーシティ構築のための実証実験プロジェクト）の本ワーキンググループ(WG51)では、双方向のコミュニケーションを容易にする WBT(Web Based Training)システムを用いた協調型演習により、①～④の壁を越えるべく演習授業の研究開発を 2000 年度から図表 1-1 のスケジュールで積み重ねてきている。

年 度	研究開発テーマ	実証実験概要
2000 年度	新製品開発プロジェクト協調型演習 用教材の研究開発	青山学院大学(4 年)
2001 年度	新規事業開発プロジェクト協調型演習 用教材の研究開発	青山学院大学(4 年 9 名)・岐 阜経済大学(修士 1・2 年 2 名)
2002 年度	2001 年度開発した教材改善、評価 方法、事業計画書生成プロトタイプ・シ ステムの研究開発	青山学院大学(3・4 年 46 名)、 学習院大学(3・4 年 9 名)・岐 阜経済大学(修士 1・2 年 4 名)

図表 1-1. WG51 の研究開発テーマと実証実験概要

今後は、本年度に開発した事業計画生成プロトタイプ・システムを、事業計画シミュレーション・システムに改善した上で、CD-ROM 化を行い、出版物としてその成果を広く社会に公開していくことにより、日本再生に寄与していきたいと考える。

2. 2002年度の研究のねらい

2001年度の研究のねらいは、ビジネスプランニングという経営学の新しい領域の教材開発への取り組み、さらに協調グループ学習というeラーニングの新しい手法の応用、という2点について、実証実験を通じ、それらの有効性を明らかにすることであった。

2002年度は、2001年度の開発成果と実証実験の評価においてあがった、「①教材コンテンツの改善」、「②実証実験評価方法の改善」、「③ビジネスプランニング学習支援システムの必要性」、「④インタラクションに関する研究」の課題を解決すべく、以下の研究開発をおこなった。

(1) 教材コンテンツ改良と3大学における実証実験実施

2001年度の青山学院大学経営学部と岐阜経済大学大学院の実証実験の評価をもとにした表1. の学習シナリオ分析表にもとづき、教材コンテンツの改善(補足資料1参照)を行った。また、2002年度は教材の大学・学年間の比較分析と大学間のインタラクションについての分析を行うべく、学習院大学経済学部も加えた3大学で実証実験を行った。

学習大項目	講義項目	講義教材	主な内容と情報	演習 整合性	演習 教材	学習成果	項目関連性と不整合
現状ビジネス の理解&ビ ジネスコン セプト	全体プロセス	02_1_進め方. ppt 02_2 現状ビジネスの 理解. ppt	トップからのメッ ジ	演習に つなが らず	自社の現状 確認シート	自社に 関する情 報理解が主	
			業界動向	→	競合他社と の比較表		確認シートと比較表の作成に 関する関連性の理解に難
			チャネル	演習に つなが らず			強み・弱みに関するものは次回に すべき項目となっている
			ビジネスモデルの例	6で学習			各項目に関する詳細について講義で フォロー無し
			BMの見直し例	〃			
			日本のEC化(B2B)	案件の 方向性 限定			
			ビジネスコン セプトと目標の設 定. ppt	直接的 な演習 なし	ビジネスコン セプト(ビ ジネス目標設定)		上記演習との関連性の理解 に難
			目標、戦略などの 定義	→		定性目標 と定量目 標	導出方法の特定、と演習化 の必要あり。同時にそれ に関する参考データ
							関連項目としては、今後利 用可能性が不明確?
						ビジョンの 策定	投資項目に関するフォローな し

市場分析・競合分析	市場・競合分析	03_1_市場・競合分析.ppt 03_2_参考資料.ppt (参考資料)	4C 分析	?	市場分析表		ほとんどの項目が次回授業にて学習
			セグメンテーション	演習無し(次回)	ホジショニングマップ		ホジショニングマップについて演習と講義の不整合あり(評価軸の不整合)
			KBF 分析	講義教材に詳しい言及なし	競合他社分析シート		
			ホジショニング(PPM?)	→			
SWOT 分析・CSF 分析	SWOT 分析 CSF 分析	04_市場分析・CSF 分析.ppt	SWOT 分析の例	→	SWOT 分析	SWOT の方法	強み弱みは全授業でやっている
			CSF 導出の方法	→	CSF 分析	SWOT→CSF →戦略の理解	→次回演習(ビジネス戦略シート)
			CSF/GAP 分析	→			CSF と SWOT の関連性が不明確
			戦略発想	?			戦略発想については次回授業にて確定
ビジネス戦略	ビジネス戦略	05_ビジネス戦略.ppt	ビジネス戦略の定義	→	ビジネス戦略シート	これまでの再確認とまとめ	今回までの完結性が高く、次回講義に対して関連が薄く、最後の7レクまで関係がなくなってしまう
			ビジネス戦略と財務計画	→		戦略の導出	
							財務計画に関する説明不足?→ビジネスプランの評価との関連性が問題
							海外企業に関する演習はこれまでない ビジネス構造図?→6回?
	テスト	06_test.ppt					
ビジネスプロセスモデルの検討	ビジネスモデルとBPM	06_ビジネスモデルの検討-1.ppt	ビジネスモデルとは(復習)	×			関連性の問題から全授業までの内容との整合性チェックが必要
			ビジネスモデルとビジネスプラン(復習)	×			
			ビジネス・プロセスとは	→次フェーズへ			
			競争戦略分析	→次フェーズへ			これまでの学習内容と若干の齟齬がある
	ビジネスモデル関連の経営手法・用語	06_ビジネスモデルの検討-2.ppt	SWOT 分析(復習)	×	(上述要素をフォロー)		
			CSF 分析(復習)	×	(上述要素をフォロー)		
			ビジネス・プロセスの流れの改革	→次フェーズへ			
			現状ビジネスモデルの把握	→	現状ビジネスモデル表	現状ビジネスモデルの再確認と図式化	ビジネスモデルについては復習的要素も多い?(学習内容の再配分の検討必要?)
			現状ビジネス・プロセスの把握	→	現状BPM表	現状ビジネス・プロセスの理解	あまり学生も理解できていない傾向があった(要素間の関連性の理解不足?)

ビジネスモデルの評価	新ビジネスモデルの評価	07_ビジネスモデルの評価. ppt	ビジネスモデルの作成ステップ	→			
			ビジネスモデルの見直し・作成	→			
			目標の再確認	→			
			問題の発見	→			2 回「ビジネスコンセプト導出手法」との関連性
			課題の優先づけ	→			ブレインストーミングの時間がネック
			新規ビジネスモデルの創造	→			
			主要ビジネスプロセスの作成	→			
			新規ビジネスモデルの評価	→ 次回 (用語の齟齬?)			
			新規ビジネスモデルの修正	→ 次回 (用語の齟齬?)			
					新規ビジネスモデル表	ビジネスモデルの革新	「自社の現状確認シート」との関連性薄い (→理解が薄くなっている可能性あり)
8	ビジネスプランの評価	08_BM 評価. ppt			新規 BPM 表	上記にともなうビジネスプロセスの作成	
			新たなビジネスプランの評価について				
			ビジネスプランの評価基準				最終的なビジネスプランの立案? 新規ビジネスモデルとの関連性があまり理解されていない様子
			多様な評価手法				
9	ビジネスプランの統合		財務評価指標の作成手順				財務指標については 2 回目の自社の現状把握シートで学習しているはずだったが、ほとんどの学生はここではじめて説明を受けた
			ビジネスプランの評価手法の演習		現行収益モデルネットワークシート	収益モデルの作成と検証	他の授業との関連性が微妙かつ複雑 (→要再検討)
プレゼンテーションコンペ			ビジネスプランの最終確認				この回は、やっていないので、具体的な内容に入っていない
			エクゼクティブサマリー作成				
			プレゼン資料作成				
			プレゼンテーションコンペ				
			エクゼクティブへのプレゼン				
			エクゼクティブからのコメント				
			再度プレゼンテーション				

図表 2 - 1. 2001 年度学習シナリオ分析表

(2) 実証実験評価方法検討にもとづくプレ／ポストアンケートの実施

2001年度の実証実験では、教材作成に迫われて、事前に評価方法の検討を行なうところまではいたらなかった。2002年度は、2001年度の反省を活かし先ず以下の点について分析が行えるよう解析シナリオを作成した上で、実証実験前（PRE）と実証実験後（POST）のアンケート調査を行った。

- ① ビジネス・プランニングのような横断統合型の教育プログラムにおける、協調型演習による学習スタイルの有効性
- ② 学生同士のインタラクティブ性、学生と教員のインタラクションが、学習意欲を向上させる。
- ③ 教材、教員、システム他の評価と改善方向。

PREアンケート（補足資料2参照）では以下のように質問事項を配置した。

問1～9：リテラシーレベルの確認

問10～12：授業に対する意識や関心のあること

問13～14：チーム分けに関する質問事項

問15：用語レベルの知識を問うPREテスト

POSTアンケート（補足資料3参照）で以下のように質問事項を配置した。

問1～5：授業の内容や方法に関する感想

問6：コミュニケーション

問7：1～3 教材の提供方法

4, 5 教材のインタラクティブ性

問8：授業によって得られた個人の変化や効果

問9：授業への関与度

問10の1～4：チームへのコミットメント

問11の1～6：教員のリーダーシップスタイル

1, 2 配慮型リーダーシップ

3, 4 タスク中心型リーダーシップ

5, 6 変革型リーダーシップ

問12：用語レベルの知識を問うポストテスト（プレテストと同一問題）

○×方式で、適当な解答ができないように順番を設定。

(3) 事業計画書生成プロトタイプ・システムの構築

2001年度の実証実験において、サイバーキャンパス・システムだけでは学生のチーム間のインタラクション、学生・教員間のインタラクション、大学間のインタラクションが十分に取りえないという問題点が明らかになり、また、個別にテーマ別に学生が提出した資料より事業計画書が生成され、将来的にはそれをもとにした事業のシミュレーションができるようなシステムが必要との認識より、2002年度は先ずインタラクションを主な目的とするプロトタイプ・システムの構築に着手した。本システムの設計作業に時間がかかり、2002年度は実証実験までにはいたらなかったが、将来の拡張性を取れるように RedHat Linux+Perl/PHP4+PostgreSQL により構築しており、2003年度以降の布石にはなりうるものとする。以下の本プロトタイプ・システムの概要を記す。

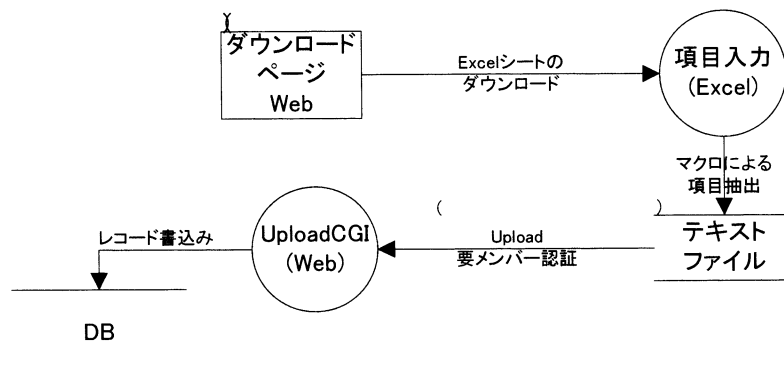
① システムの目的：

本システムは、既定書式の Excel シートに記述した事業計画を、Web サービスで管理することを目的とする。

② システムの主な機能

(a) ドキュメント管理

事業計画フォーム（既定書式 Excel シート）毎の項目をデータベース上のテーブルに構築する。



図表 2-2 事業計画書生成プロトタイプ・システム概要図

(b) Upload サービス

事業計画フォームからマクロによりテキストデータへ変換後、Web サーバへ送付し、データベースに登録する。

(c) 閲覧サービス

データベースに格納されている事業計画を検索し、規定フォーマットにて表示する。

(d) メンバー管理

データの送付者、Web サービスへのアクセス権限等をデータベースで管理する。

③ システム環境

(a) サーバ

OS	Red Hat Linux release 7.2
Web サーバ	apache-1.3.22-6
データベース	postgresql-7.1.3-2
CGI 言語	perl-5.6.0-17、php-4.0.6-7

図表 2－3 サーバ仕様

(b) クライアント

OS	Windows プラットフォーム
アプリケーション	MS Excel (VB、マクロ使用)
Web ブラウザ	IE4 以降

図表 2－4 クライアント仕様

3. サイバービジネスプランニング演習の概要

(1) サイバービジネスプランニング演習のねらい

サイバービジネスプランニング演習では、「ビジネスモデル転換による新事業企画プロセス」を、自律かつ協調的にサイバー空間上で体験し、IT による事業構造変革の実践方法と新事業企画に必要な各種の戦略理論や手法を習得することを狙いとしている。講義（理論）だけでなく、できるだけ自分達で調査し、考えながら体得・学習していくことにより、次の3つのことを習得し、情報技術(IT)を駆使できるビジネスリーダーを育てることを狙いとしている。

- ① 企業における事業企画に関連する全業務プロセスについての理解
- ② 企業におけるビジネスモデルの変革活動についての理解
- ③ 背景となる主な理論についての理解

(2) サイバービジネスプランニング演習の講義計画

講義は、「① イントロダクション（ビジネスとは、ビジネスモデルとは）」、「② 現状ビジネスの理解とビジネス目標設定」、「③ 市場分析（市場モデル）・競合分析（競合モデル）」、「④ SWOT 分析・CSF 分析」、「⑤ ビジネス戦略（戦略モデル）」、「⑥ ビジネスプロセスモデルの検討」、「⑦ ビジネスモデルの検討・評価」、「⑧ ビジネスプランの評価（収益モデル）」、「⑨ ビジネスプランの統合（事業計画書作成）」、「⑩ プレゼンテーション・コンペ」、「⑪ まとめ&グループインタビュー」など、企業におけるビジネスプランニングの全業務プロセスの概要を取り扱う。

参加者は、3人ずつのチームに分かれ、各チームには所属する企業のトップから、「従来のビジネス構造を越えた新しいビジネスモデルを考え、新規事業を起こす特命」が与えられる。各チームは、現状ビジネスの理解、競合分析、その他の各種分析、事業戦略検討、ビジネスモデル検討・評価などを行い、最終的に実施計画を企画立案の上、各社の経営会議に付議（プレゼン）することが求められている。

チームごとに、リーダー、マーケティング担当、財経担当を決め、半期（実証実験は3ヶ月）で新規事業の企画を完了する。また、この演習は、原則として、「サイバービジネス演習」の履修者を前提としている。

実 施 時 期	講 義 内 容
第1回 (2002.10.3 1/2限)	イントロダクション（ビジネスとは、ビジネスモデルとは）
第2回 (2002.10.10 1/2限)	現状ビジネスの理解とビジネス目標設定
第3回 (2002.10.17 1/2限)	市場分析（市場モデル）・競合分析（競合モデル）
第4回 (2002.10.24 1/2限)	SWOT分析・CSF分析
第5回 (2002.10.31 1/2限)	ビジネス戦略（戦略モデル）

第6回	(2002. 11. 12 1/2 限)	ビジネスプロセスモデルの検討
第7回	(2002. 11. 19 1/2 限)	ビジネスモデルの検討・評価
第8回	(2002. 11. 28 1/2 限)	ビジネスプランの評価 (収益モデル)
第9回	(2002. 11. 28 1/2 限)	ビジネスプランの統合 (実施計画書作成)
第10回	(2002. 12. 5 1/2 限)	プレゼンテーション・コンペ
第11回	(2003. 1. 22 1/2 限)	まとめ&グループインタビュー

図表3-1 各回講義の内容 (青山学院大学)

学習院大学では経済学部経営学科の学生9名に対し授業として、「サイバービジネスプランニング」を実施した。ただし、他の2大学と異なり半期2単位 (毎週1回90分) の内容のため、授業時間内で終わらない分を自宅学習とした。

授業開始：2002年9月17日 (火) 2限 ～ 2003年1月14日 (火) 2限

実施時期	講義内容
第1回 (2002. 9. 17 2限)	テーマ1 オリエンテーション、概要、プレアンケート
第2回 (2002. 9. 24 2限)	テーマ2 現状ビジネスの理解
第3回 (2002. 10. 1 2限)	テーマ3 目標設定
第4回 (2002. 10. 8 2限)	テーマ4 市場・競合・SWOT分析
第5回 (2002. 10. 15 2限)	テーマ4 市場・競合・SWOT分析 (継続)
第6回 (2002. 10. 22 2限)	テーマ5 事業戦略・CSF分析 (口頭説明のみ)
第7回 (2002. 10. 29 2限)	テーマ6 現状ビジネスプロセスの検討
第8回 (2002. 11. 12 2限)	テーマ7 新ビジネスプロセスの評価
第9回 (2002. 11. 19 2限)	テーマ7 新ビジネスプロセスの評価 (継続)
第10回 (2002. 11. 26 2限)	テーマ8 ビジネスプランの評価
第11回 (2002. 12. 3 2限)	テーマ8 ビジネスプランの評価 (継続)
第12回 (2002. 12. 10 2限)	テーマ9 実施計画書作成、プレゼン資料作成
第13回 (2002. 12. 17 2限)	テーマ9 実施計画書作成、プレゼン資料作成 (継続)
第14回 (2003. 1. 14 2限)	テーマ10 プレゼンテーション・コンペ

図表3-2 各回講義の内容 (学習院大学)

テーマ4までの日程でほとんどのチームが遅れていたため、テーマ5のビジネス戦略 (戦略モデル) の回は口頭説明のみで学生側にアウトプット提出を省略したが、全体的に余裕がなく時間に追われる感じであった。この件で、学生側の負担が大きかったことが口頭でフィードバックもされている。

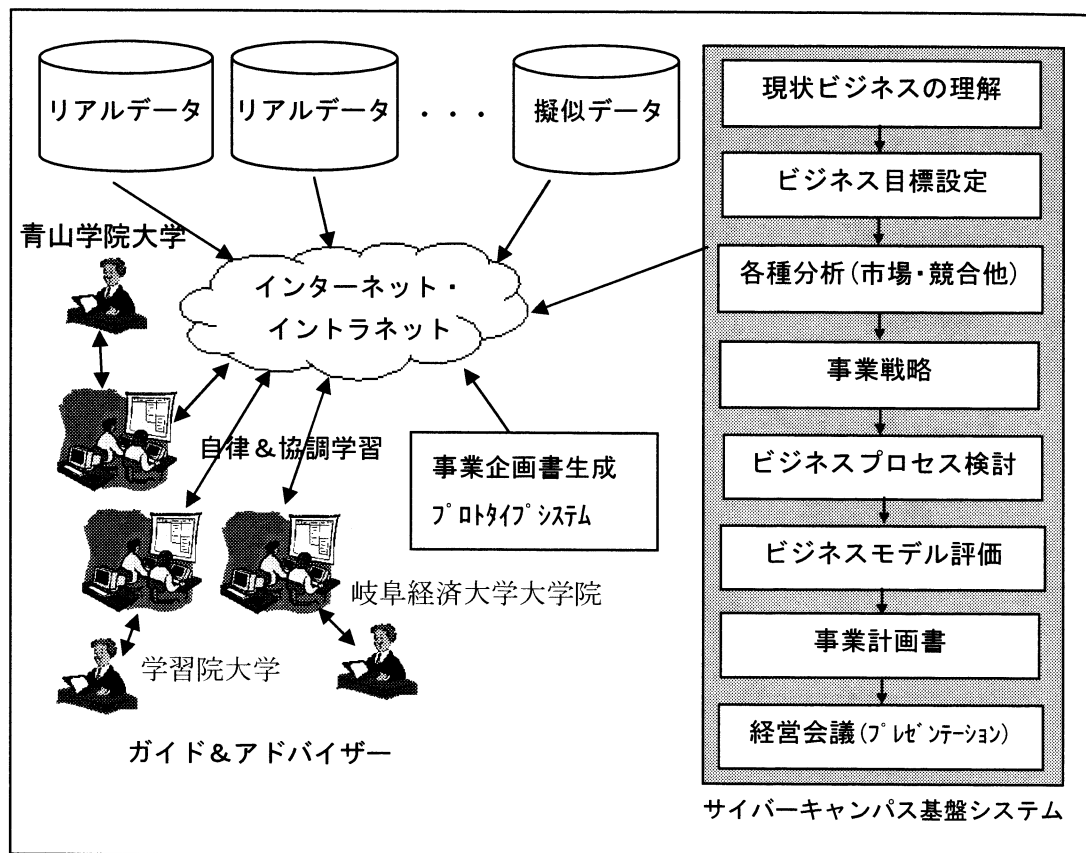
最後のプレゼンテーション・コンペは、時間の余裕がない中で、各チームともそこそこできていた。しかしやはり 2 単位の時間割では時間不足のため、テーマ内容を大幅に割愛することが必要であったことが反省点である。

（３）実証実験の概要

「サイバービジネスプランニング演習」は AML II プロジェクトで 2001 年度に実施した実証実験の一つとして開発された教育プログラムである。同プログラムは 2002 年度から青山学院大学経営学部専門科目の一つとして 3～4 年次を対象に正規授業化され、2003 年度はより規模を拡大する計画である。また、岐阜経済大学大学院、学習院大学でも実証実験が行われた。

本実証実験は、学生が自律的に学習できる講義形式および協調型演習形式を研究開発することを目的としており、2001 年度は青山学院大学の学部 4 年生 9 名、2002 年度は青山学院大学の学部 3・4 年生 46 名、学習院大学の 3・4 年生 9 名、岐阜経済大学大学院の修士 1・2 年生 1 名を対象として行われた。

本演習では、「PC メーカーにおけるビジネスモデル転換による新事業企画プロセス」を、自律かつ協調的にサイバー空間上で受講者が体験する方式をとっている。また IT による事業構造変革の実践方法と新事業企画に必要な各種の戦略理論や手法を、教えられるのではなく自律的に調査し、考えながら体得・学習することができるものとなっている。

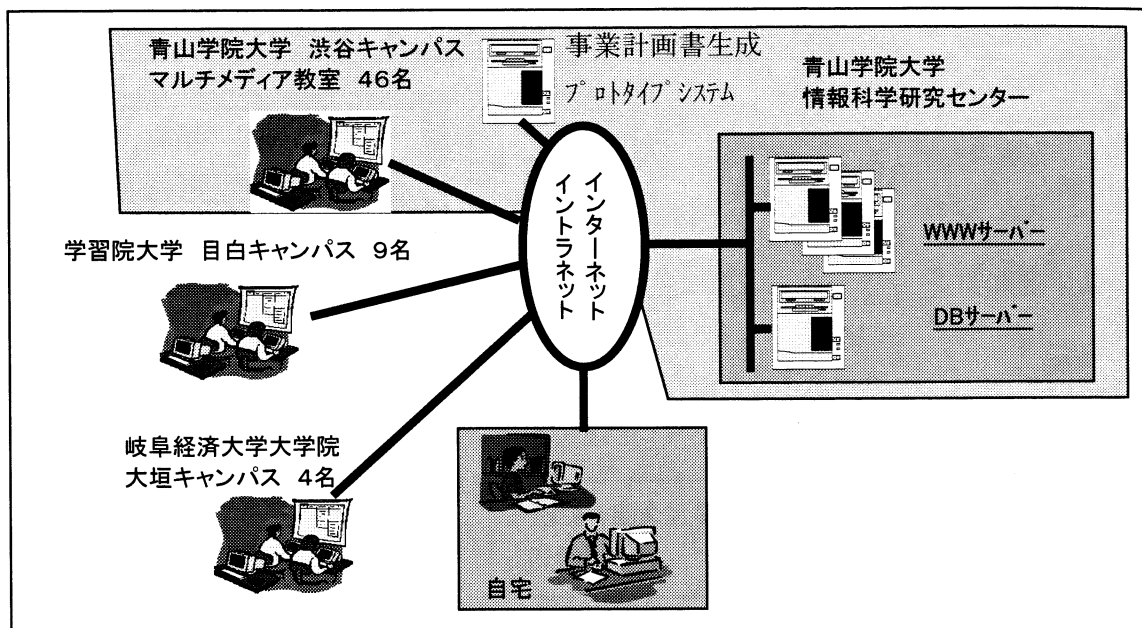


図表 3-3 サイバービジネスプランニング演習全体図

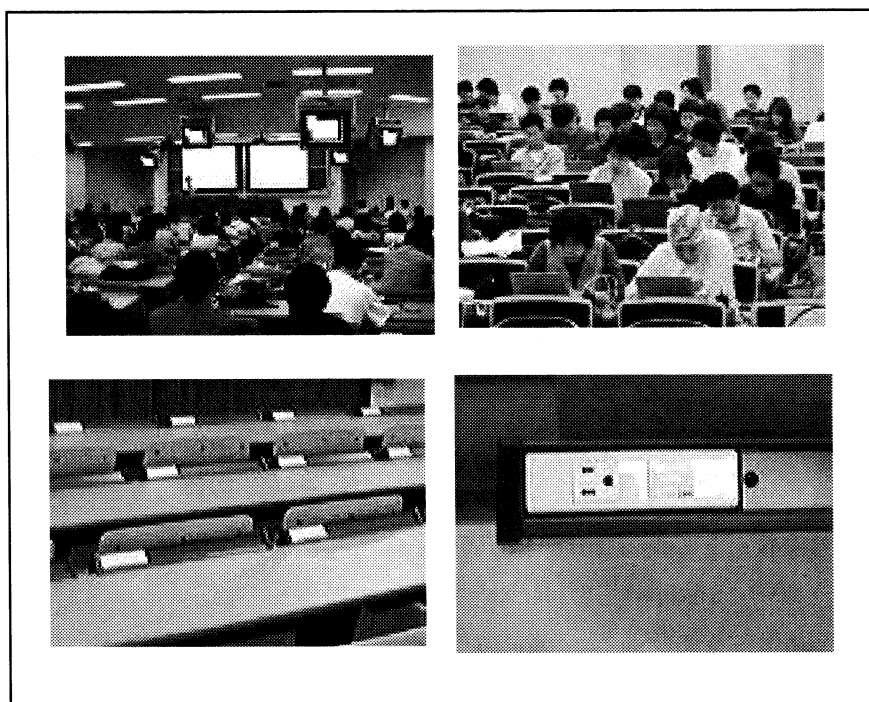
(4) 実証実験の実施環境

実証実験は青山学院大学 渋谷キャンパスの9号館にあるマルチメディア教室、学習院大学(目白)、岐阜経済大学大学院(大垣)において行われた。本実証実験で使用したサイバーキャンパス基盤システムは青山学院大学 渋谷キャンパスの情報科学研究センターに設置されている。青山学院大学内の教室との間は10Mbpsの構内LANで接続されており、インターネットとはファイヤーウォール経由10Mbps+512kbpsで接続されている。

サイバーキャンパス基盤システムは、AMLプロジェクトと日本ユニシス株式会社で共同開発したシステムで、LinuxベースのPCサーバーによるWWWサーバーとアプリケーション/DBサーバー 数台から構成されている。図表3-4にその構成を示す。



図表 3 - 4 実証実験構成図

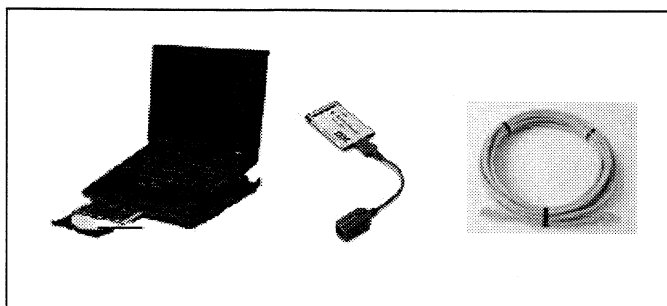


図表 3 - 5 マルチメディア教室と LAN 用コンセント

青山学院大学のマルチメディア教室には教壇側に大型のスクリーン 2 枚とプロジェクター 2 機が、また、補助用の TV ディスプレイ 8 機が天井に据え付けられている。講師はノート PC を操作卓に電源ケーブル、LAN ケーブル、外部ディスプレイ用ケーブルで接続することにより講義・演習が行なわれている。また、学生側の机にも図表 3 - 5 のような電源と LAN ケーブル

を接続するためのコンセントが用意されており、各自が保有するノートパソコンを接続することによりサイバーキャンパス基盤システムやインターネットを利用することができる。

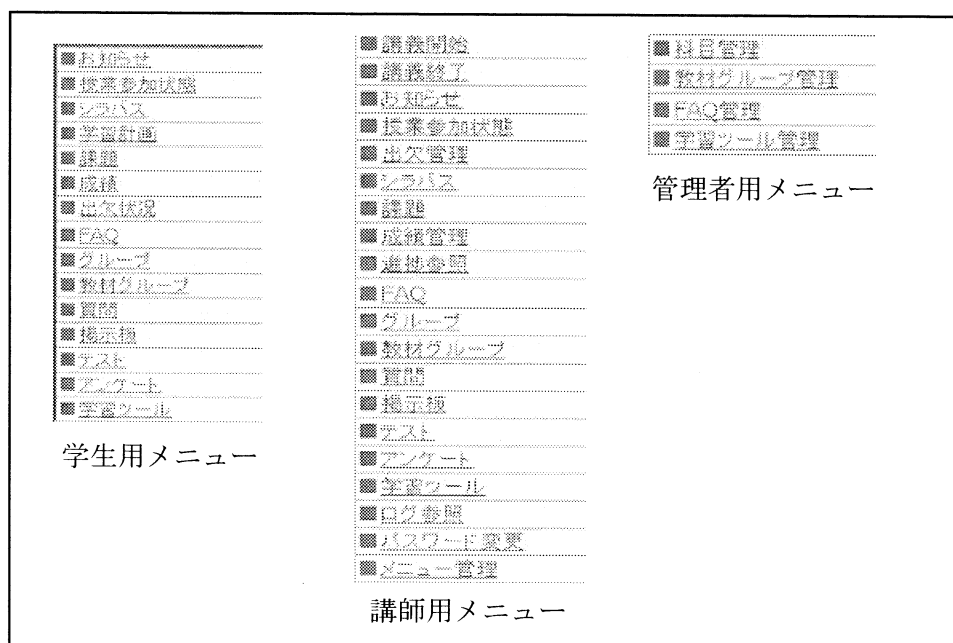
次に学生は図表 3－6 のようなノート PC と LAN カード、LAN ケーブルを持参して構内 LAN に接続し、本実証実験に参加した。



図表 3－6 学生が使用したパソコン環境

(5) 実証実験で使用したサイバーキャンパス基盤システムの機能

実証実験で使用したサイバーキャンパス基盤システムの主な機能がわかるようメニュー画面を図表 3－7 に示す。



図表 3－7 サイバーキャンパス基盤システムの主なメニュー

学生は「① 講師の定めた“教育シナリオ”にしたがって、“教材機能”により予め登録されているテキストをダウンロード」し、講義を受ける。続く演習においては、「② 同じ“教材機能”により各種の分析用シートをダウンロードし、必要な調査・分析をインターネットな

ども用いて自律的に行い、その結果のファイルを“提出物機能”を用いて講師に提出」するという形で授業は進行する。

講師からの指示は“伝言板機能”を用いて適宜行い、学生が疑問に感じた事項などは“質問箱機能”を通じて講師に質問することが可能である。また、“FAQ 機能”により質問者以外に対して質疑内容を簡便に公開したり、“小テスト機能”や“アンケート機能”を用いて、学習者への効果を確認したりすることも可能である。

その他、成績管理に必要な“出欠管理機能”も有しており、他の OA ソフトやインターネット関連ソフトと組み合わせて使用することにより、効果的な演習講義を行うことができる。

(6) 実証実験における被験者

本実証実験実施にあたって、前述のように青山学院大学経営学部の3・4年生46名、学習院大学経済学部の4年生9名、岐阜経済大学大学院の修士1・2年生4名に被験者として協力していただいた。被験者達は、経営学部の通常の授業を履修済みであり基本的な知識を習得し、就職を控えた時期でもあり実務に対する関心とIT活用における熱心な取り組みが期待された。実験中にITリテラシーの面でインタラプトされることはほとんど発生しなかった。

各大学の演習は以下のチーム編成で行われた。

(a) 青山学院大学 経営学部

Team 番号	メンバー氏名
1	松嶋、赤石、内藤
2	今泉、加納、久保埜
3	柏木、巽、吉田
4	黒田、瀧澤、石井
5	吉沢、稲垣、室橋、柏原
6	藤津、馬場、盛田
7	二瓶、長浜、堀
8	富田、鈴木、岡安
9	田口、橋本、玉井、村野
10	本村、藤田、中島
11	松田、小林、工藤
12	渡部、森脇、林、舩田
13	丹、菊池、松本

図表3-8 青山学院大学チーム編成表

(b) 学習院大学 経済学部

Team 番号	メンバー氏名
1	青野 (4年)、平野 (4年)、日比野 (4年)
2	神名 (4年)、久保寺 (3年)、矢作 (3年)
3	石塚 (4年)、山本 (4年)、豊 (3年)

図表3-9 学習院大学チーム編成表

(c) 岐阜経済大学大学院

Team 番号	メンバー氏名
1	佐々木、澤田
2	チョウ

図表 3-9 岐阜経済大学大学院チーム編成表

4. アンケート結果とその評価

(1) アンケート全体の分析結果総評

本演習を受講した学生像についてだが、自宅にインターネット接続（70%がブロードバンド）されたパソコンを所有しており、比較的情報リテラシー度が高く、大学以外で毎日一定時間学習をするという習慣はなく、興味をもったものにのみ考え調べものをするが、わからないところがあるとかにかく覚えてしまうという学習スタイルを有する。

アンケート結果の総評としては、本演習授業の意義を学生が十分に理解し、評価した結果となっている。具体的には、「本授業の内容は将来の仕事に役立ち、より専門的に学習していきたい」、「書籍では学習できない」、「事業計画立案／ビジネス分析・計画／企業戦略立案／新製品企画・開発／マネジメントに関する知識の習得につながった」、「これまで気づかなかった自分の長所や短所に気づいた」、「自分の進路について考えるきっかけになった」、「学習に対する新しい考え方をもらった」などのプラス評価を得ている。また、小テスト結果も、演習授業前と後で青山学院大学が8.5%、学習院大学が6.5%、岐阜経済大学では36%とそれぞれ平均点が上がっており、知識面でも一定の効果があることが確認された。特に、授業を離れても進め方、アイデア、関連知識の習得を行う学生も出てきており、組織として結果を残す（1+1を3にする）ために努力していることが回答から見受けられ、協調型演習がその意味でも役に立つ授業であると再確認する結果となった。

逆に、マイナス面や今後の課題としては、ビジネスプランニングという内容が経営学の専門科目を統合した内容となっているため、その前提知識の説明と課題の多さより教育コースを圧迫することからくるものが多く見受けられた。たとえば、全般を通じてもう少しシステムを活用した授業が行われることを望む、学生に発言する機会をふやすなどが上げられていた。

そのほか、「この授業で教員の教える内容に含まれていないアイデアを生むことができた」と回答する学生は少なく、今後の授業改善の中でアイデアを創造する内容を盛り込む必要性を感じる。今回の授業では「事業企画書生成プロトタイプ・システム」が完成していなかったこともあり、チーム内、チーム間、学生－教員間、大学間、世代間のインタラクションも十分に取ることができなかったが、今後は、内容の絞込みを行うと同時にポイントの部分にシステムによるインタラクションを織り込み、学習が深まる教材改良を継続する必要性を強く感じた。

最後に大学間のアンケート結果の相違については、あまり大きな隔たりはない印象を受けるが、今後更に分析を深めてその相違についてまで考究していきたい。

(2) アンケートの個別分析結果

① 被験者の情報リテラシー度 (PRE アンケートより)

本演習を受講した学生全てが自宅にインターネット接続(70%がブロードバンド)されたパソコンを所有しており、ワープロ、表計算、インターネット(ブラウザー、メール)、プレゼンテーションソフトを一通り使いこなせる能力を有する。また、ほとんどの学生がレポート作成や研究発表に表計算ソフトやプレゼンテーション用ソフトを日常的に使用しており、比較的情報リテラシー度の高い学生が今回の実証実験の被験者となっている。

② 普段の学習状況 (PRE アンケートより)

普段の学習状況についての実証実験前のアンケートによると、ほとんどの学生が大学以外で毎日一定時間学習をするという習慣を持たず、学生の目標や興味をもったもののみに時間をかけて本を読んだり、考え調べたりする傾向がうかがえる。また、受験勉強の名残かわからないが、半数の学生はわからないところがあっても、とにかく覚えるという学習スタイルを持っている。

あなたの普段の学習についてうかがいます。以下のそれぞれについて最もよくあてはまると感じる数字に○をしてください。		とてもあてはまる			どちらかというにあてはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	自分で目標や計画を立てて学習する	1	1	0	10	1	1	8	2	1	4	1	0	1	1	0
2	予習や復習をする	1	0	0	3	1	1	11	0	0	9	2	1	0	2	0
3	試験やレポートがなければ学習しない	1	2	0	10	1	0	10	1	0	3	2	2	0	0	0
4	自分にあった学習の仕方を工夫する	5	1	0	15	5	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	大学以外で毎日一定時間学習する	0	0	0	4	0	0	5	1	2	12	2	0	3	3	0
6	授業などで興味を持ったことがあれば、本を読んだりする	5	1	1	12	2	0	4	3	0	2	0	1	1	0	0
7	わからない問題でも時間をかけて考える	2	3	1	11	2	0	5	1	0	6	0	1	0	0	0
8	学習していて興味を持ったことを納得するまで考えたり調べたりする。	5	2	0	10	2	1	8	2	1	1	0	0	0	0	0
9	試験やレポートに関係ない学習はしない	0	0	0	6	1	0	10	3	0	6	2	1	2	0	1
10	わからない問題は飛ばして、たくさん問題にあたる	0	0	1	5	2	0	11	1	0	6	2	1	2	1	0
11	普段から試験に出そうなところだけを学ぶ	1	0	0	4	0	0	10	0	1	8	6	0	1	0	1
12	わからないところがあってもとにかく覚える	1	0	0	8	1	0	7	1	0	7	3	1	1	1	1
13	新聞や雑誌で広く学習するのが好きである	1	0	0	15	3	2	3	2	0	5	1	0	0	0	0

図表 4-1 普段の学習状況 (PRE アンケート)

(3) グループ学習への印象 (PRE アンケートより)

今回の実証実験においては、青山学院大学は3～4名、学習院大学は3名、岐阜経済大学は2名ずつのグループに分かれて演習を行った。演習の前に行ったアンケートでは、チームメイトはよく知っている人がよいという意見が大勢を占めている。ただし、チーム編成が学生の思うようにならなかったという理由で授業を途中で諦めるというほど強い要望があるわけでは

ない。グループ学習へのイメージについては、作業に少し時間はかかるがコミュニケーションなどにも不安は少なく、逆に楽な授業であるとの認識を持っている。

チーム別のグループ学習についての理解についてうかがいます。以下のそれぞれについて最もよくあてはまると感じる数字に○をしてください。		とてもあてはまる			どちらかというとはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	チームメイトはよく知っている人が良い	20	1	1	0	1	1	0	3	0	1	1	0	2	0	0
2	チームメイトにはよく知らない人でも成績が良い人がいい	3	0	0	6	1	0	4	1	0	4	4	1	6	0	1
3	チーム編成によっては授業を途中で切るかもしれない	1	0	0	4	1	1	6	0	0	1	2	0	11	3	0
4	グループ学習は不安である	3	0	0	5	2	0	8	1	0	5	1	1	2	2	1
5	グループ学習はコミュニケーションが面倒である	1	0	0	4	1	0	3	0	0	10	2	0	5	3	2
6	グループ学習は楽である	1	0	0	9	1	1	7	1	1	5	4	0	1	0	0
7	グループ学習は作業に時間がかかる	2	1	0	11	4	1	8	0	0	2	0	0	0	1	1

図表4－2 グループ学習への印象（PRE アンケート）

（4）授業の内容評価（POST アンケートの質問）

授業の内容評価についてだが、本授業の内容はほとんど未知の内容であり、将来の仕事に役立ち、より専門的に学習したいというプラス的な評価がなされていた。ただし、青山学院大学と岐阜経済大学では期待していたどおりの内容であったとの評価を受けているが、学習院大学ではどちらともいえないとの意見が多く見受けられ、青山と岐阜の約半分のコマ数で学習院の演習が構成されていたことがその遠因ではないかと推測する。

また、この授業の内容は34名中31名が書籍では学習できない内容と判断しており、協調型学習がビジネスプランニングのような統合型の演習授業が適していると学生は考えていることが伺える。

この授業の内容についてあなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。		とてもあてはまる			どちらかというとはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	授業の内容は知っていることばかりだ	0	0	0	1	0	0	6	2	1	13	3	1	4	2	1
2	将来の仕事に役立つ内容の授業だ	7	2	1	14	4	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0
3	意味のわからない専門的な言葉が多すぎる	0	1	0	2	0	1	8	2	2	14	4	0	0	0	0
4	授業でやっている内容くらいなら本を読めば十分だ	0	0	0	0	0	0	2	1	0	10	5	3	12	1	0
5	内容が高度すぎる	0	0	0	3	1	0	11	5	2	8	1	1	2	0	0
6	期待していたどおりの内容である	3	0	0	12	0	3	7	6	0	2	1	0	0	0	0
7	授業でなかったことについてもっと専門的に学習したい	7	1	1	10	1	2	7	3	0	0	2	0	0	0	0
8	もっと詳細な内容についても学習したかった	1	1	0	8	0	1	9	5	2	5	1	0	0	0	0

図表4－3 授業の内容評価アンケート結果（POST アンケート）

(5) 受講の理由

受講の理由としては、3大学とも内容と将来のために必要な技術を身につけたいという前向きな理由が多く見受けられる。青山学院大学ではPRE アンケートでは単位が必要だから受講したと答えていたのに、POST アンケートでは単位のためではないとの回答に変わっており、受講により意識が高まったことが伺える。また、社会人出身である教員への興味をあげている学生も3大学に存在する。

		(PRE)授業を選択した理由の内、下にあげるものについて、それぞれの程度自分に当てはまりますか。		とてもあてはまる		どちらかというにあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		全くあてはまらない	
		(POST)授業を最後まで受講した理由について、この授業を選択して受講したので、今の自分にとってそれぞれの程度自分に当てはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。		PRE	POST	PRE	POST	PRE	POST	PRE	POST	PRE	POST
青山学院大学	1 単位が必要だから	2	1	12	8	9	0	0	11	1	3		
	2 内容に興味があったから	13	12	10	9	0	1	1	1	0	0		
	3 他に出席したい授業がない時間帯だから	0	0	3	2	7	2	10	11	4	8		
	4 教員に興味があったから	3	2	6	8	11	10	4	3	0	0		
	5 将来のために必要な技術を身につけたいから	9	7	9	11	5	5	1	0	0	0		
	6 知人や友人が多く出席するから	1	0	10	8	4	6	8	5	1	4		
	7 サイバービジネス演習を受講して上位科目に興味が出たから (PRE のみ)	5	-	11	-	3	-	3	-	2	-		
学習院大学	1 単位が必要だから	1	0	1	0	0	1	1	2	3	3		
	2 内容に興味があったから	3	2	3	4	0	0	0	0	0	0		
	3 他に出席したい授業がない時間帯だから	0	0	2	1	1	0	0	0	3	5		
	4 教員に興味があったから	5	1	1	5	0	0	0	0	0	0		
	5 将来のために必要な技術を身につけたいから	2	1	4	3	0	1	0	1	0	0		
	6 知人や友人が多く出席するから	1	0	0	1	0	2	2	0	3	3		
岐阜経済大学	1 単位が必要だから	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1		
	2 内容に興味があったから	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0		
	3 他に出席したい授業がない時間帯だから	1	0	0	0	0	0	1	0	2	2		
	4 教員に興味があったから	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0		
	5 将来のために必要な技術を身につけたいから	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0		
	6 知人や友人が多く出席するから	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2		

表4. 4 受講の理由アンケート結果 (青山学院/PRE/POST アンケート)

(6) 習得の評価

学生が受講前にあげていた「事業計画を立案できるような知識の習得」、「ビジネス分析・計画に関する知識の習得」、「企業戦略立案に関する知識の習得」、「企業でのマネジメントに関する知識の習得」、「新製品企画・開発についての知識の習得」については、ほぼ期待通りの成果をあげられたと概ね満足している。

ただし、「起業家になる知識の習得」、「コンピュータに関する知識の習得」、「ビジネス上のプレゼンテーション能力の習得」については、不満足な結果であったとの意見が多く見受けら

れる。このうち、「コンピュータに関する知識の習得」と「ビジネス上のプレゼンテーション能力の習得」については、本コンテンツ開発において学生に期待していた主な目標ではなく、受講前に学生がある意味誤解をしていたことに起因するものであると考える。しかし、「起業家になる知識の習得」についての満足度が低いことは、より理由を分析し今後の教材改善に反映させていくべき課題として認識する。上記の理由を少し考察するならば、今回の演習授業が大企業内の新規事業創出をテーマにしており、学生から見て本来の独立起業とは異なるものを感じたこと、アクションプランまでは時間的制限のため踏み込めていないことから、もっと具体的な起業イメージを伝えることができなかったことなどが理由としてあげられるかもしれない。青山学院大学ではこの部分を補完するために、青学出身の起業家、弁理士、公認会計士、行政の企業支援担当の方などを各回講師に招く「アントレプルナー基礎講座（半期12コマ）」を別に開講している。

	この授業でどの程度のことを学びましたか。それぞれ、最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。	とてもあてはまる		どちらかというにあてはまる		どちらともいえない		あまりあてはまらない		全くあてはまらない	
		PRE	POST	PRE	POST	PRE	POST	PRE	POST	PRE	POST
青山学院大学	1 事業計画を立案できるような知識を(得たい)習得できた	8	1	14	15	1	7	1	0	0	0
	2 ビジネス分析・計画ができるような知識を(得たい)習得できた	13	0	10	18	0	5	1	0	0	0
	3 起業家になる知識を(得たい)習得できた	7	0	7	6	7	10	3	7	0	1
	4 企業戦略を立案できる知識を習得できた	12	1	10	12	0	10	1	0	0	0
	5 財務計画を立てられるような知識を習得できた	4	1	7	4	8	9	5	7	0	2
	6 コンピュータに関する知識を習得できた	11	0	10	6	3	9	0	8	0	1
	7 企業でのマネジメントについて知識を習得できた	12	0	9	14	2	8	1	1	0	0
	8 製造業に関する知識を習得できた	1	0	7	4	12	11	4	6	0	2
	9 新製品企画・開発についての知識を習得できた	11	1	7	14	4	7	2	1	0	0
	10 ビジネス上のプレゼンテーション能力を身につけたい	12	-	11	-	1	-	0	-	0	-
学習院大学	1 事業計画を立案できるような知識を(得たい)習得できた	4	0	2	5	0	1	0	0	0	0
	2 ビジネス分析・計画ができるような知識を(得たい)習得できた	3	0	2	3	0	2	0	1	0	0
	3 起業家になる知識を(得たい)習得できた	2	0	1	1	2	1	1	4	0	0
	4 企業戦略を立案できる知識を習得できた	2	0	3	1	1	4	0	1	0	0
	5 財務計画を立てられるような知識を習得できた	3	0	3	0	0	3	0	3	0	0
	6 コンピュータに関する知識を習得できた	3	0	0	2	2	1	0	2	1	1
	7 企業でのマネジメントについて知識を習得できた	2	0	3	3	1	3	0	0	0	0
	8 製造業に関する知識を習得できた	1	0	2	2	0	2	3	2	0	0
	9 新製品企画・開発についての知識を習得できた	1	0	2	0	2	3	1	3	0	0
	10 ビジネス上のプレゼンテーション能力を身につけたい	4	-	2	-	0	-	0	-	0	-

岐阜経済大学大学院	1	事業計画を立案できるような知識を(得たい)習得できた	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0
	2	ビジネス分析・計画ができるような知識を(得たい)習得できた	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0
	3	起業家になる知識を(得たい)習得できた	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1
	4	企業戦略を立案できる知識を習得できた	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1
	5	財務計画を立てられるような知識を習得できた	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
	6	コンピュータに関する知識を習得できた	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1
	7	企業でのマネジメントについて知識を習得できた	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0
	8	製造業に関する知識を習得できた	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0
	9	新製品企画・開発についての知識を習得できた	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	10	ビジネス上のプレゼンテーション能力を身につけたい	0	-	2	-	0	-	0	-	0	-

図表 4-5 習得の評価

(7) 教育方法／教材／教員の評価

教育方法については「今後もこのような形式の授業を受講したい」、この形式の授業は自分に合っている」および「後輩にも受講をすすめたい」とプラス評価を学生はおこなっている。教材については今回の授業では事業計画書生成プロトタイプ・システムの試用ができなかったこともあり、主に Excel を用いたことから不満の声も見受けられるが、実際の企業ではプランニング段階では概ねワープロ、表計算ソフトを用いて行われており、この質問項目に若干問題があったことによる面も否めない。教材については、青山学院大学・学習院大学は学部レベルだったこともあり、課題の量が若干多いとの不満も出るが進行の早さ、教材の難易度にそれほど不満を感じておらず、概ね適切なものであったと考える。担当教員についてはどの大学も満足をいただいているが、学生数の多い青山学院大学ではアシスタントへの希望が多く見受けられる（今回はアシスタント 0 で実施）。

この授業の教え方、教材、教員についてあなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。		とてもあてはまる			どちらかというとはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	今後もこのような形式の授業を受講したいと思う	11	0	2	8	4	0	4	1	0	0	1	0	0	0	0
2	どこが重要なかわかりにくい	0	1	0	2	1	0	8	3	0	13	1	0	0	0	2
3	この形式の授業は自分に合っている	3	0	2	12	0	0	6	4	0	2	2	0	0	0	0
4	表計算ソフトばかりではなく企業で実際につかうようなソフトを使うべきだ	3	1	0	13	1	1	5	2	0	2	1	1	0	1	0
5	授業時間が長い	0	1	0	7	0	0	8	1	0	8	3	0	0	1	2
6	講義よりも演習のほうが技術を身につけやすかった	5	0	1	11	1	1	6	4	0	1	1	0	0	0	0
7	成績評価の仕方には不満がある	1	0	0	0	0	0	10	1	0	5	1	0	7	3	2
8	担当教員の説明はわかりやすい	1	1	2	16	3	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0
9	進行が早すぎてついていけない	0	0	0	4	1	1	8	1	0	11	2	0	0	2	1

10	授業に集中できないときがある	1	1	0	6	1	0	11	2	0	4	2	1	1	0	1
11	授業での演習は難しすぎる	0	0	0	1	2	1	13	3	1	9	1	0	0	0	0
12	後輩にも受講をすすめたい	3	1	2	13	1	0	5	4	0	2	0	0	0	0	0
13	授業中アシスタント（又は教師）にもっと作業を補助してほしい	7	0	0	7	1	0	3	3	0	3	2	1	3	0	1
14	授業一回ごとの課題の量が多い	0	1	0	10	2	0	7	1	0	6	2	1	0	0	1

図表 4－6 教育方法／教材／教員の評価

(8) 改善方法

学生があげた本演習授業をより改善する方法は、「チームでの学習をより多く取り入れ」、「実際にソフトを使ってみる実習の比率を増やし」、「授業の最初の方で、基本的な知識をよりていねいに説明し」、「授業中、学生に発言する機会をふやす」ことであった。特に青山学院大学と学習院大学の学生は学部3・4生で、現在の大学カリキュラムからは1・2年次にそれほど経営学専門科目を受講できない状況からこのような統合型知識を必要とする授業を行うにはかなりの広範な基礎知識を演習ごとに説明をしなければならず授業のコースウェア全体をそれが圧迫している面があることが遠因としてあると考える。

この授業を改善する方法として、次にあげる考えは、あなたにとってどの程度あてはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。		とてもあてはまる			どちらかというにあてはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	チームでの学習をより多く取り入れる	4	0	1	12	3	1	5	1	0	2	2	0	0	0	0
2	実際にソフトを使ってみる実習の比率を増やす	5	0	1	10	3	0	7	3	0	1	0	1	0	0	0
3	授業の最初の方で、基本的な知識をよりていねいに説明する	6	0	1	15	4	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0
4	より少人数のクラスにする	0	0	0	4	0	1	4	2	0	13	1	0	2	3	1
5	授業中、学生に発言する機会を与える	2	0	2	8	1	0	8	3	0	6	2	0	0	0	0
6	教室の解説画面をもっと見やすくする	2	0	0	5	2	0	7	2	0	6	2	1	3	0	1
7	一つの授業を複数の専門の先生が担当する	5	1	0	5	1	0	4	2	1	7	1	0	2	1	1

図表 4－7 改善方法

回 答
講義で勉強した知識をより深くするためにはどうしたらよいか具体的に提示すること。
今回はPCを使っただけでしたが、これにも少し自由がきくと楽しいものとなった気がする。PCを使っただけの授業だが、PCが好きという人ばかりではないと思うので、企画案などを考えるときにPCと関係ないもの、これらについて考え、発表はPCを使うという感じにすると良いかと思う。PCを道具として使えるようにはなりたいがPC業界にたいした興味というものはないのでPCに関する企画案と言われてもピンとこなかった。
事前知識があったほうがより深い学習が出来ると思うので、2年次にマーケティング論、マネジメント論、財務会計論を必修にすべきだと思う。また、社会人になったときのためにも、最新の経営学理論を身に付けさせ、サイバービジネスを中核としたカリキュラム作りが必要だと思う。1年生のうちに、古典的、基礎的経営学を終了させ、2年で、最新の経営学知識を身につけ、3年でサイバービジネスを用いた実践的経営学の習得を可能にしてほしい。
プレゼンテーションに対する質疑応答が短すぎた。というより、みんなの意見を聞いたり、議論をしたりして、改善された案でプレゼンテーションするところを最後の課題としたかった。せつかなので、サイバーキャンパスシステムをフルに活用して、ほかの班との情報交換ができれば楽しかったと思います。
たまに小テストを行い理解度を高めてほしい。小テストで間違えたり、考えたりすることにより理解しやすいと思います。

課題をグループ内で分担して行っていたため、A の課題をするには、B の課題が必要だというとき、その B の課題を他の人が持っていて、連絡が取れなくて課題が出来ないことがあった。グループ内での連絡ができるようにすることが重要だと思ったし、そのためには、サーバー上にある自分のプロフィールに授業中全員に、入力する必要があると思った。課題が、どのノートパソコンに入っているのか不明確な状態を避けられるように、サーバー上の掲示板には、クラス単位ではなくて、グループ単位の掲示板があってもよかったと思った。[サーバーの掲示板は、そのクラスの人全部がみることができるので、あまり効率的ではないと思っていたため使いませんでした。]
企業の事例などを講義中にもっと取り上げて欲しかったです。
やはり1つ1つの作業の具体例や数字などをパワーポイントなどでもう少し細かく解説していただきたかったというのが率直な感想です。
できれば、2コマ×通年で授業をやって頂ければもっと充実した授業ができたかと思います。でも現実的には8単位になるとゼミ並になるから、なかなか実現するのが難しいと思いますが…。
先生とのコミュニケーションをより多くとって学習内容に深みを持たせれば、さらに充実した授業になったと思います
少し想像を要する作業が多いので、具体例がもっとほしかった。

図表 4－8 改善方法（自由記入）

（9）コミュニケーション

コミュニケーションについては、チームメイトとも教員とも WBT システムを活用している効果もあるのか非常に円滑にできているとの回答が多かった。特に、授業外でもチームメイトとコミュニケーションをよく取れたという点は WBT システムの効用として評価できるものと考ええる。

	授業におけるコミュニケーションに関しておうかがいします。あなたにとってどの程度あてはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。	とてもあてはまる			どちらかというにあてはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	自分のチームメイトとうまくコミュニケーションがとれた	9	1	1	10	3	1	2	1	0	2	1	0	0	0	0
2	授業外にもチームメイトと頻繁にコミュニケーションをとった	8	0	0	7	3	2	3	1	0	5	1	0	0	1	0
3	教員と頻繁に質問などのコミュニケーションがとれた	4	0	1	5	1	1	9	4	0	4	1	0	1	0	0
4	教員に対して抵抗がなく質問することができた	5	2	1	12	2	1	4	2	0	2	1	0	0	0	0

図表 4－9 コミュニケーション

（10）教材・ワークシートの評価

教材・ワークシートは適切に学生の学習効果を高める内容になっていると評価している。特に、チーム・メンバーの作成したワークシートや他チームが作成したワークシートが学習を深める上である程度の効果があると捉えられている。

	授業で利用した教材（テキストやワークシート）について、あなたの考えについてお答えください。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。	とてもあてはまる			どちらかというにあてはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	テキストはデータより紙で配付してほしい	1	0	0	2	2	1	3	2	0	8	1	0	9	1	1
2	テキストはワープロ形式よりもパワーポイントのほうが見やすいと思う。	10	1	1	9	3	1	1	1	0	2	0	0	1	1	0
3	ワークシートは私の理解を助けている	3	0	1	18	4	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0

4	自分のチームが作成したワークシートをあとから参考にして更に自分の学習を深めることができた	2	1	0	12	0	1	7	2	1	2	3	0	0	0	0
5	他チームが作成したワークシートを参考にして更に自分の学習を深めることができた。	5	0	0	7	0	1	7	1	1	4	5	0	0	0	0

図表 4－10 教材・ワークシートの評価

(11) 授業の成果

一方的な教え授ける方式の授業ではなく、自発的に考えながら学習を深めていく本演習授業の結果として、学生が「これまで気づかなかった自分の長所や短所に気づいた」、「自分の進路について考えるきっかけになった」、「学習に対する新しい考え方をもった」と回答をしている。ただし、「この授業で教員の教える内容に含まれていないアイデアを生むことができた」とする学生は多くなく、今後の授業改善の中でアイデアを創造する内容を盛り込む必要性がある。

また、ビジネスプランニングに関連する知識に関する小テスト結果は、演習授業前と後で青山学院大学が8.5%、学習院大学が6.5%、岐阜経済大学では36%とそれぞれ平均点が上がっており、知識面でも一定の効果がある授業と考えることができる。

	あなたが授業で得られた成果と思うことについてお うかがいします。あなたにとってどの程度あてはま りますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して 下さい。	とてもあて はまる			どちらか という とあて はまる			どちらとも いえ ない			あまりあて はま らない			全くあて はま らない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	これまで気づかなかった自分の長所や短所に気づいた	1	0	0	9	2	1	4	3	0	8	1	1	1	0	0
2	自分の進路について考えるきっかけとなった	0	0	0	8	1	0	8	0	1	5	4	1	2	1	0
3	この授業によって以前と違う学習に対する考えをもった	2	0	0	9	2	1	8	2	1	5	1	0	1	1	0
4	この授業で教員の教える内容に含まれていないアイデアを生むことができた。	0	1	0	6	0	2	8	2	0	7	3	0	2	0	0

図表 4－11 授業の成果

	PRE 平均点	POST 平均点	UP 率
青山学院大学経営学部	64.5	70	8.5%
学習院大学経済学部	72	76.7	6.5%
岐阜経済大学大学院	50	68	36%

図表 4－12 小テストの結果 (PRE/POST)

(12) 授業の評価

青山学院大学と岐阜経済大学大学院の学生は、この授業に非常に好感を持っており、中には授業を離れていても進め方やアイデアや関連知識の習得を行う学生も出てきている。学習院大学の学生は課題と内容に比してコマ数が少ないために課題をこなすことに追われて自分で考える楽しさを味わうところまでは至らなかったように見受けられる。また、3大学の学生ともチームの決定に参画している意識を持つに至っていることが回答からうかがえる。

授業について、あなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。		とてもあてはまる			どちらかというとはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	この授業には興味を持っている	8	0	2	12	5	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0
2	この授業では、発言や提案する機会が与えられているので面白かった。	2	0	2	11	2	0	9	4	0	1	0	0	0	0	0
3	この授業が好きである	5	0	2	13	0	0	4	5	0	0	1	0	0	0	0
4	教室を離れても、この授業の演習の進め方について、自分なりに考えることがよくあった。	1	1	1	10	1	0	9	1	1	3	3	0	0	0	0
5	授業時間外にも、この授業で役立てるための勉強をしている	0	0	0	3	1	2	12	2	0	7	2	0	1	1	0
6	授業時間外にも、思いついた課題のアイデアをメモすることがよくあった。	0	0	0	6	0	1	4	1	0	9	4	1	4	1	0
7	私はこの授業においてチームでの決定に参画していると思う	5	2	1	13	1	1	5	1	0	0	1	0	0	1	0
8	この授業は私に合っていると思う	5	0	2	10	1	0	7	3	0	1	2	0	0	0	0

図表 4-13 授業の評価

(13) チームの評価

チームについては個々の学生は必ずしも他のチーム員と価値観が似ていなくても、組織内の競争心よりは組織として結果を残す（1+1を3にする）ために努力していることが回答から見受けられる。実際のビジネスでは組織として結果を残していくことが求められることが多いが、協調型演習がその意味でも役に立つ授業であると考ええる。

あなたのチームについて、あなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。		とてもあてはまる			どちらかというとはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	自分のチームに対して、情動的な親しみを覚えた	7	1	1	12	2	1	4	3	0	0	0	0	0	0	0
2	自分の価値観とチームの価値観が非常に似ていると思う	2	0	0	8	1	0	9	4	0	4	1	2	0	0	0
3	自分のチームは、自分が授業に参加する上で非常に意義のある存在だった。	6	1	0	10	3	2	7	2	0	0	0	0	0	0	0
4	私はチームとして授業を受けることがとても大切だと感じているので、自分のチームに留まり授業に参加することに対して義務を感じた。	4	2	0	11	1	1	5	3	0	1	0	1	2	0	0
5	自分のチームメイトに対して競争心があった	1	0	0	7	0	2	4	0	0	8	2	0	3	4	0
6	他のチームよりもいいものを作成したいと思っていた	11	2	1	9	2	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0

図表 4-14 チームの評価

(14) 教員の評価

3 大学とも教員については、一方向の授業よりは親密感を持ち、概ね学生の気持ちや立場を大切にし、悩みや不満も理解したうえで、将来のビジネスの方向性について機会を見て語っていると評価している。

以下にあげるそれぞれの項目について、授業の担当教員に当てはまる程度に最も近いと思われる数字を解答欄に記入してください。		とてもあてはまる			どちらかというところにあてはまる			どちらともいえない			あまりあてはまらない			全くあてはまらない		
		青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐	青	学	岐
1	学生の気持ちや立場を大切にしている	2	1	2	16	2	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0
2	学生の悩みや不満を理解している	1	0	1	7	1	1	15	4	0	0	1	0	0	0	0
3	いったん出した課題は学生に必ず実行するように求めている	6	1	1	8	2	1	7	3	0	2	0	0	0	0	0
4	学生の力からみて、ぎりぎりいっぱい仕事を要求している	2	0	1	5	4	0	10	2	0	5	0	1	1	0	0
5	従来のやり方にとらわれず、新たなやり方を試みている	3	3	2	13	2	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0
6	将来のビジネスの方向性について、機会をみては語っている	8	1	2	9	3	0	5	2	0	1	0	0	0	0	0
7	学生と親密な立場で授業を行っている	4	3	2	13	2	0	4	1	0	2	0	0	0	0	0
8	課題、レポート、テストなどの成績について、明確な基準を持っている。	0	0	1	8	1	0	11	3	1	4	2	0	0	0	0

図表 4－15 教員の評価

(15) その他自由記入欄

今回の授業では「事業企画書生成プロトタイプ・システム」が完成していなかったことと、統合型のビジネスプランニングの学習内容を学ぶための基本知識の説明と課題作成に時間が取られ、サイバーキャンパス基盤システムを使ったディスカッションにまで至らなかった点が学生には不満に捉えられている。今後は、内容の絞込みを行うと同時にポイントの部分に学生、教員、他大学の学生、教員、世代が違った学生とシステムによるインタラクションを織り込み、学習が深まる教材改良を継続する必要がある。

回 答
後期の授業回数だけでその内容は少しきついのではないだろうか。もう少しやる範囲を絞って、一つ一つ丁寧に教えて欲しいと思った。パワーポイントなどの教材で分かりやすかったのが良かったです。
思っていたよりも、有実な授業でした。前期の授業はあまり自分にはあっていなかったので満足しています。
チームを組んでいく上で、やはりまったく知らなかった人と突然コミュニケーションを取れといわれても非常に難しいところがあったので、最初はとまどってしまった。授業紹介(シラバス)にあらかじめチームを編成して授業を行っていくようなことが書いてあればそれなりに自分の知り合いを誘い合わせて履修できたし、そのほうがもっとより良いチームワークが発揮できたと思う。そして、そうなることがこの授業の内容をよりいっそう向上させるように思えた。
課題提出機能はグループ単位で、出せるようにしてほしい。パートナーの課題も参考にしたいので。最終授業の先生からの講評はよかったとおもう。実務社会での経験が生かされていて良いと思った。できれば、普段の授業でもそういった意見をおっしゃっていただけると助かる。
補助教員をもっとたくさんつけて欲しかった
ビジネスプロセスを考えるというのはとても大変でしたが、トイレという新しい方向から考案することができたことは自分自身にとってもとても新鮮でためになりました。ありがとうございました。
僕の班は人数が4人でワークシートの提出というのを自分はあまりやらずにみんなのサポートに回った結果色んな知識を身につけることができた反面やはり自分で提出してないためか内容を忘れやすかった気がします。できれば人数を3人の班に入ってもらって自分で提出したかった。だから来期の授業は三人の班にするのがいいと思います。
サイバーキャンパスのシステムが、出席のためにしか使われていないような気がしました。ファイルをアップできる機能がついているのにそれを活用できなかったことは残念でした。授業中に、掲示板を使うことをもう少し積極的にしたらよかったと思います。シラバスにパワーポイントをインストールしておいたほうがよいことを書いていたほうがいいのかもかもしれません。
サイバーキャンパスシステムをもっと利用して欲しいと思いました。例) 今回のアンケートはアンケート機能を用いて行う 掲示板機能を利用しグループディスカッションを行う 講義開始のボタンを毎回しっかり押す

・1つのテーマが終わったら小テストなどを行えばより理解が深まるのではないのでしょうか。・課題提出機能の登録区分をグループにすれば同じグループ内で提出したものを見ることができていいと思う。
多少自由時間が多かっただけに、最初の内はあまり切羽つまって作業しなかったため自分自身反省をしています。しかし新規事業の企画や戦略、他社分析、市場動向、財務など流れを実際に自分達で作り考え、最終的にそれをプレゼンするという授業内容や進行は大変勉強になり理解も深まりました。
出席をもっとちゃんととった方がいいと思います。
もう少し基盤システムの機能を使ってほしかった。
質問機能などのサイバーキャンパスシステムの機能をもっと有効に使用したかったです。
実例をもっと多く話してくだされば良かったと思う。
去年度はマーケティングで似たような形式の授業をとりましたが、だいたい似たような感じでした。マーケティングの方は、仲が良く飲み会とかあったのが違います。あの高いシステムはあまりいらなかったような気がします。Sフォルダーも結構使えます。(学習院大学)
外国人留学生として経済大国で経済を勉強できる事がとてもラッキーだと思います。言葉の問題で授業の内容は上手く理解できなかったかもしれませんが、勉強の雰囲気とかIT技術を活かした授業方法などにはとても感心します。今後も宜しくお願いします。(岐阜経済大学)

図表 4－16 自由記入欄

5. おわりに

本実証実験を終えて、2001年度で得た本演習の有効性に関する確信が深まり、教材面で指摘を受けた部分については概ね学生のプラス評価を受けるところまできたとの印象を持ちえている。また、2001年度に満足に実証実験の評価を行えなかったアンケート内容についても学生の学習状況の把握と問題・改善方向を細かく分析しうる基礎資料を提供しうるものになったと考える。ただし、システム面については教材の改良と評価方法の改善にほとんどの時間が取られたこともあり、各種のインタラクションを取るための事業計画書生成プロトタイプ・システムも3月中旬に完成するという状況の中、大きな改善に繋げることができなかった。また、サイバーキャンパス基盤システムが夏休みに変更されたこともあり、相互連携の強化も今後難しい面を感じつつあり、今回構築したプロトタイプ・システムを中心として、まとまりのあるシステム構築を今後行っていきたいと考える。

主な今後の課題を以下に述べる。

(1) 評価方法の更なる改善

今回かなり精細にアンケート評価項目を取ったが、母数の問題もあり、大学間の差異を十分に取るところまでは至らなかった。今後はその面もよくわかるようなことも含めて、評価方法の更なる改善を行ってきたい。

(2) インタラクション(学生間、学生/教員間、教員間、大学間)に関する研究

プロトタイプ・システムが完成しなかったこともあり、インタラクションに関する研究が十分になされなかった。インタラクションの効果がよく反映されるようなシステムの改善とともに教材の改善も更に継続して行っていきたい。

(3) 事業計画書生成プロトタイプ・システムの強化

今回、構築した事業計画書生成プロトタイプ・システムでは将来の拡張を考えて、Excelで学生が提出した課題シートの入力項目が関係データベースの項目として管理できる

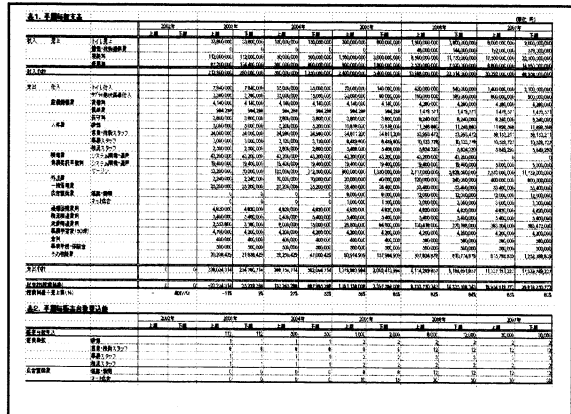
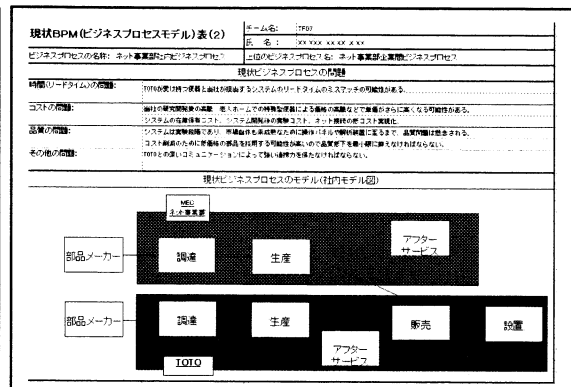
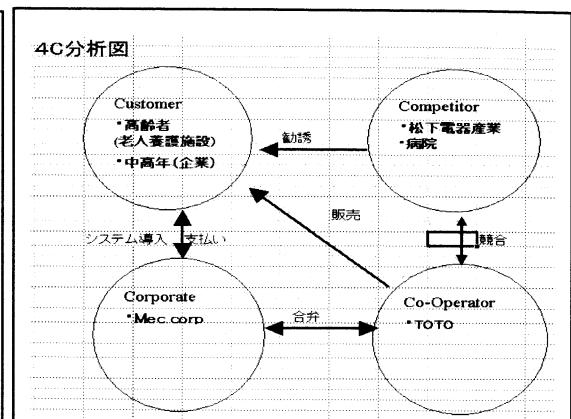
仕組を実現している。この仕組を用いることにより、事業環境や各種の前提条件を変更したときに事業採算がどのように変わっていくのかなどをシミュレーションする機能も拡張していけるシステムとなっている。今後の更なる機能追加改良を継続していきたい。

最後になったが、今回の実証実験に際し、積極的に被験者となっていただいた青山学院大学、学習院大学、岐阜経済大学大学院の学生諸君に心から感謝の言葉を述べたい。またアンケート作成において助言を頂いた松田 岳氏（青山学院大学国際マネジメント研究科）、サイバーキャンパス基盤システムやオプションソフトの対応でご尽力いただいた日本ユニシス(株)、および(株)ウィザードのご担当各氏にお礼を申し上げたい。そして、同演習のみならず全体のプロジェクトを管理・実施された青山学院大学の玉木教授に感謝の言葉を述べたい。さらに AMLII 事務局として、研究プロジェクト実施中、様々な無理難題の依頼に対し快く対応いただいたプロジェクト室、萬田、中山両女史にお礼を申し上げたい。

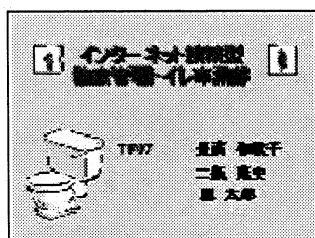
本研究が、日本における e ラーニングのさらなる進展と大学の競争力向上に貢献することを願ってやまない。

1. ワークシート記入サンプル

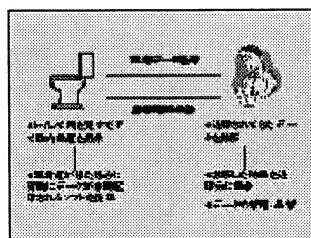
28



2. プレゼンテーション用資料サンプル



1



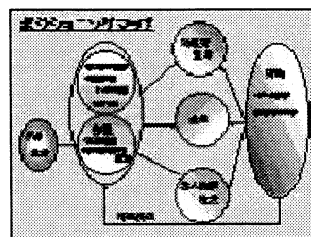
2

- 高松市・松山県内を走る「うぶ」と新線**
- これからの社会の発展と発展とされる高松市と松山県内を走る「うぶ」と新線へのアプローチ
 - 高松の一端をたどる「うぶ」と新線と新線との新幹線との関係
 - 大手トイレットメーカーの「うぶ」との会社会社設立による関係と新線と新線との成立

3



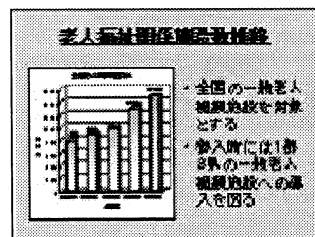
1



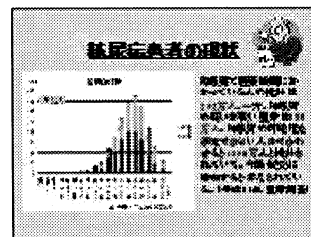
3

- ### 市場の現状と将来：総合統計状況
- 国内需要は、景気の回復に伴って増加傾向にあるが、海外需要は、依然として低迷傾向にある。
 - 国内需要の増加に伴い、海外市場への輸出も増加傾向にある。
 - 海外市場への輸出は、依然として低迷傾向にある。
 - 海外市場への輸出は、依然として低迷傾向にある。
 - 海外市場への輸出は、依然として低迷傾向にある。
- 

1



1



f

- | TO TOとの合併会社設立の利点 | |
|-----------------------------|-------------------|
| NEC | TO TO |
| ● 国際化の促進 | ● 2009年12月～12月 発生 |
| ● 支店数の拡大と高品質 | ● トータル400店舗の展開 |
| ● 事業資金提供が容易 | ● 創業50周年記念イベント |
| ● TO TOのシステム活用
の活用と基盤使用の | ● 環境改善とコスト削減 |
| ● 在庫管理の向上 | ● トータル顧客数を拡大 |

1

[illegible]

3. プレアンケート用紙

2002 年度後期「サイバービジネスプランニング演習」

プレアンケート

2002 年 9 月??日実施

学部：	性別：	名前：
これまでの受講科目（当てはまるもの全てに丸をつけてください）： 経営学総論・商学総論・マーケティング原理・会計学基礎論・財務会計論 情報ネットワークリテラシー・情報処理および実習・サイバービジネス演習		

このアンケートは、授業のスムーズな実施、改善などのために行われます。率直に答えてください。回答された内容は統計的に処理され、提出の有無は成績に影響しますが、内容によって皆さんの成績が減点されることは一切ありません。また、プライバシー保護のため、個人データは厳重に取り扱います。

あなたのコンピュータの経験についてうかがいます。

問1 あなたのコンピュータ利用経験について以下の項目のうち、当てはまるもの一つに○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 自分のパソコンを持っていて、日常的に使用していた。
2. 自分のパソコンは持っていなかったが、自宅、友人宅、学校、またはアルバイト先のパソコンを日常的に使用していた。
3. 自分のパソコンを持っていた、または自宅、友人宅、学校、アルバイト先に使用できるパソコンがあったが、ほとんど使っていなかった。
4. 自分のパソコンを持っていた、または自宅、友人宅、学校、アルバイト先に使用できるパソコンがあったが、まったく使っていなかった。 |
|---|

問2 同じく問1で1、2、3のどれかに○をつけた人におたずねします。

次のソフトウェアを使用したことがありますか。利用したことのあるものすべてに○をつけてください。

- | |
|---|
| 1. ワードプロ 2. 表計算ソフト 3. プレゼンテーションソフト（パワーポイントなど）
4. インターネットエクスプローラなどの Web ブラウザ 5. データベースソフト
6. メールソフト 7. わからない |
|---|

問3 以前から自分のパソコンを持っていた、または家族が持っていたかたにうかがいます。
そのパソコンはインターネットに接続されていましたが、もし接続されていたのなら、どのようにネットワークに接続されていたかを選んでください。

- | |
|--|
| 1. ネットワークにはつながっていなかった。 2. 普通の電話回線で接続されていた。
3. ISDN で接続されていた。 4. ADSL で接続されていた。
5. ケーブル TV の回線で接続されていた。 |
|--|

6. その他のブロードバンド回線で接続されていた。
7. PHS や携帯電話で接続されていた。 8. 回線の種類はわからない。
9. 接続されていたかどうかわからない。

問4 最近 Web ページ（ホームページ）をどれぐらいの頻度で閲覧しますか。

1. 一日に何度も 2. 一日に一回程度 3. 二、三日に一回程度
4. 一週間に一回程度 5. 一週間に一回以下

問5 Web ページ（ホームページ）を閲覧する目的は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 趣味や興味のある情報を知るため 2. 勉強・研究に利用する情報を集めるため
3. 日常生活に役立つ情報を集めるため 4. Web ページを通じて教育を受けているため
5. 海外の情報を直接知るため 6. 英語のページを見ると勉強になるから
7. 知人や友人が Web ページを持っているので 8. 休講など大学の情報を知るため
9. フリーメール（hotmail など）を使うため 10. 掲示板（BBS）を使うため
11. チャットをするため 12. オンラインゲームをするため 13. その他の目的
14. Web ページの閲覧はしない

問6 最近、プレゼンテーションソフト（パワーポイントなど）をどれぐらいの頻度で利用していますか。

1. 一日に何度も 2. 一日に一回程度 3. 二、三日に一回程度
4. 一週間に一回程度 5. 一週間に一回以下

問7 プレゼンテーションソフトを使用する目的は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. レポートや報告資料を書くため 2. 絵や図表を描くため
3. その他の目的 4. 使用しない

問8 表計算ソフトを、どれぐらいの頻度で利用していますか。

1. 一日に何度も 2. 一日に一回程度 3. 二、三日に一回程度
4. 一週間に一回程度 5. 一週間に一回以下

問9 表計算ソフトを使用する目的は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 表計算機能を使ったレポートや報告書を書くため
2. 家計簿や小遣い帳がわりとして使用するため 3. 名簿などの作成・管理のため
4. 統計分析のため 5. グラフを描くため 6. その他の目的 7. 使用しない

あなたのこの授業に対する関心、意識についてうかがいます。

問 10 この授業を選択した理由のうち、下にあげるものについて、それぞれの程度自分に当てはまりますか。

全くあてはまらない
あまりあてはまらない
どちらともいえない
あてはまる
どちらかといえば
とてもあてはまる

- 1 単位が必要だから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 2 内容に興味があったから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 3 他に出席したい授業がない時間帯だから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 4 教員に興味があったから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 5 将来のために必要な技術を身につけたいから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 6 知人や友人が多く出席するから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 7 サイバービジネス演習を受講して上位科目に興味が出たから 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1

問 11 この授業でどの程度のことを学びたいですか。それぞれ、もっともよくあてはまる数字に○をつけてください。

全くあてはまらない
あまりあてはまらない
どちらともいえない
あてはまる
どちらかといえば
とてもあてはまる

- 1 企業計画を立案できるような知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 2 マーケティング分析・計画ができるような知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 3 システムエンジニアになる知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 4 企業戦略を立案できる知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 5 財務計画を立てられるような知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 6 コンピュータに関する知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 7 企業でのマネジメントについて知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 8 製造業に関する知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 9 新製品企画・開発についての知識を得たい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 10 ビジネス上のプレゼンテーション能力を身につけたい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1

問 12 あなたの普段の学習についてうかがいます。以下のそれぞれについて最もよくあてはまると感じる数字に○をしてください。

全くあてはまらない
あまりあてはまらない
どちらともいえない
あてはまる
どちらかといえば
とてもあてはまる

- 1 自分で目標や計画を立てて学習する 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 2 予習や復習をする 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 3 試験やレポートがなければ学習しない..... 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 4 自分にあった学習の仕方を工夫する 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 5 大学以外で毎日一定時間学習する 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 6 授業などで興味を持ったことがあれば、本を読んだりする 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 7 わからない問題でも時間をかけて考える 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 8 学習していて興味を持ったことを納得するまで考えたり
調べたりする 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 9 試験やレポートに関係ない学習はしない..... 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 10 わからない問題は飛ばして、たくさんの問題にあたる 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 11 普段から試験に出そうなところだけを学ぶ 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 12 わからないところがあってもとにかく覚える 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 13 新聞や雑誌で広く学習するのが好きである 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1

問 13 チーム別のグループ学習についての理解についてうかがいます。以下のそれぞれについて最もよくあてはまると感じる数字に○をしてください。

全くあてはまらない
あまりあてはまらない
どちらともいえない
あてはまる
どちらかといえば
とてもあてはまる

- 1 チームメイトはよく知っている人が良い..... 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 2 チームメイトにはよく知らない人でも成績が良い人がいい..... 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 3 チーム編成によっては授業を途中で切るかもしれない 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 4 グループ学習は不安である 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 5 グループ学習はコミュニケーションが面倒である 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 6 グループ学習は楽である 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 7 グループ学習は作業に時間がかかる 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1

問 14 あなたの友達のことについて質問します。この授業を履修してしようとしている人たちの中であなたの仲のいいお友達のお名前を記入してください。チームを編成するうえでの参考にするのでお答えください（必ずしもご希望に答えられません）。

--

あなたの経営に関する理解についてうかがいます。

問 15 あなたの経営に関する理解について以下の項目のうち、正しいと思うものすべてに○をつけてください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. ビジネスプランニングとは、ビジネスプラン（事業計画）を立案することである。2. 事業計画は、毎月新しいものをゼロから作らなければならない。3. ビジネス・プロセスとは、製造メーカーが製品をつくる活動そのものをいう。4. ROA とは、お客様の満足度を表す指標である。5. SWOT 分析とは、企業の強みと弱みだけについて徹底的に分析することを指す。6. 円高になると、海外へ製品を輸出している企業の利益は増加していく傾向がある。7. SCM とはサプライチェーンマネジメントの略語であり、自社内のマネジメント方式の分析を行うことである。8. BPR とは企業利益の最大化を目的として、ビジネスプロセスを再構築することである。9. 5W1H は、What, Who, Whom, When, Where, How のことである。10. ブレーンストーミングを行う上では、皆の意見と調和するように配慮しながら考える必要がある。11. 問題とは「現状とあるべき姿（目標）とのギャップで、困っている現象や事柄のこと」であり、課題とは「達成すべきこと（テーマ）」である。12. 4C 分析における 4C とは、Customer, Competitor, Corporate, Co-operator のことを指す。13. ビジネスプランとは「経営者の夢（将来のあるべき姿）」を実現するシナリオという見方もできる。14. ポジショニング・マップにおける問題児とは、市場としては市場成長率が高いにもかかわらず、自社の相対的マーケットシェアは低い状況にある商品のことをいう。15. CSF とは Critical Success Factor の略である。16. コトラーの 4P とは、Product, Price, Purchase, Promotion のことをいう。17. ビジネス戦略とは企業がシェアの最大化を達成するために特定の事業分野、もしくは製品市場分野において競争企業に対して差別的な優位性を確立するための基本的な構想である。18. BTO とは Build To Order の略である。19. M. ポーターの 5 大競争要因とは、新規参入の脅威、代替製品・代替サービスの脅威、売手の交渉力、供給者の支配力、既存競合者同士の敵対関係のことをいう。20. 戦略とは What（目的／考え方／ビジョン）をいい、戦術とは Why（手段／オペレーション）のことをいう。 |
|---|

21. ビジネスとは、「一定の目的と計画とにもとづいて経営する経済的活動」をいう。
22. ビジネスのアイデアさえよければ、ビジネスプランを書かなくても、容易に経営者や資金提供者から事業に必要な経営資源を得ることができる。
23. ビジネス戦略を考える上では、1点の最適化をはかるように考えるべきである。
24. コトラーは、マーケティングを「個人や組織の目的を満足させる交換を創出するための、アイデア、財、サービスの概念形成、価格設定、プロモーション、流通を企画し、実行する過程」と定義している。
25. バランスト・スコアカードの4つの視点とは、財務的視点、顧客の視点、サプライチェーンの視点、学習と成長の視点のことをいう。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

4. ポストアンケート用紙

学習院大学 2002 年度後期「経営学特殊講義：企業変革と情報システム」

ポストアンケート

2003 年 1 月実施

学部：経営	性別：男	名前：
-------	------	-----

このアンケートは、授業のスムーズな実施、改善などのために行われます。率直に答えてください。回答された内容は統計的に処理され、提出の有無は成績に影響しますが、内容によって皆さんの成績が減点されることは一切ありません。また、プライバシー保護のため、個人データは厳重に取り扱います。

この授業の内容や方法についてうかがいます。

問1 この授業の内容についてあなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

- | | とてもあてはまる | どちらかといえばあてはまる | どちらともいえない | あまりあてはまらない | 全くあてはまらない | 回答欄
↓ |
|-----------------------------------|----------|---------------|-----------|------------|-----------|----------|
| 1 授業の内容は知っていることばかりだ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 2 将来の仕事に役立つ内容の授業だ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 3 意味のわからない専門的な言葉が多すぎる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 4 授業でやっている内容くらいなら本を読めば十分だ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 5 内容が高度すぎる | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 6 期待していたどおりの内容である | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 7 授業でならったことについてもっと専門的に学習したい | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 8 もっと詳細な内容についても学習したかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 9 ほかに改善してもらいたい点がありましたら自由に記入下さい。 | | | | | | |

(自由記入欄)

問2 この授業を最後まで受講した理由について、この授業を選択して受講したのちで、今の自分にとってそれぞれの程度自分に当てはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

回答欄 ↓
 全くあてはまらない
 あまりあてはまらない
 どちらともいえない
 あてはまる
 どちらかといえば
 とてもあてはまる

- 1 単位が必要だから受講した 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 2 内容に興味があったから受講した 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 3 他に出席したい授業がない時間帯だから受講した 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 4 教員に興味があったから受講した 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 5 将来のために必要な技術を身につけたいから受講した 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 6 知人や友人が多く出席するから受講した 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:

問3 この授業でどの程度のことを学びましたか。それぞれ、最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

回答欄 ↓
 全くあてはまらない
 あまりあてはまらない
 どちらともいえない
 あてはまる
 どちらかといえば
 とてもあてはまる

- 1 事業計画を立案できるような知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 2 ビジネス分析・計画ができるような知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 3 起業家になる知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 4 企業戦略を立案できる知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 5 財務計画を立てられるような知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 6 コンピュータに関する知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 7 企業でのマネジメントについて知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 8 製造業に関する知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
 9 新製品企画・開発についての知識を習得できた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:

問4 この授業の教え方、教材、教員についてあなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

回答欄
↓
全くそうは思わない
そうは思わない
どちらかといえば
どちらともいえない
そう思う
どちらかといえば
とてもそう思う

- 1 今後もこのような形式の授業を受講したいと思う 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 2 どこが重要なのかわかりにくい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 3 この形式の授業は自分に合っている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 4 表計算ソフトばかりではなく企業で実際につかうような
ソフトを使うべきだ 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 5 授業時間が長い 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 6 講義よりも演習のほうが技術を身につけやすかった 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 7 成績評価の仕方には不満がある 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 8 担当教員の説明はわかりやすい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 9 進行が早すぎてついていけない 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 10 授業に集中できないときがある 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 11 授業での演習は難しすぎる 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 12 後輩にも受講をすすめたい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 13 授業中アシスタント（又は教師）にもっと作業を補助
してほしい 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 14 授業一回ごとの課題の量が多い 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:

問5 この授業を改善する方法として、次にあげる考えは、あなたにとってどの程度あてはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

回答欄
↓
全くあてはまらない
あてはまらない
どちらかといえば
どちらともいえない
あてはまる
どちらかといえば
とてもあてはまる

- 1 チームでの学習をより多く取り入れる 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 2 実際にソフトを使ってみる実習の比率を増やす 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 3 授業の最初の方で、基本的な知識をよりていねいに説明する 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 4 より少人数のクラスにする 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 5 授業中、学生に発言する機会を与える 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:

- 6 教室の解説画面をもっと見やすくする5---4---3---2---1:
- 7 一つの授業を複数の専門の先生が担当する5---4---3---2---1:

問 6 授業におけるコミュニケーションに関しておうかがいします。あなたにとってどの程度あてはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

- | | | | | | | | |
|--|-----------|------------|-----------|-------|----------|----------|-------|
| | 全くあてはまらない | あまりあてはまらない | どちらともいえない | あてはまる | どちらかといえば | とてもあてはまる | 回答欄 ↓ |
|--|-----------|------------|-----------|-------|----------|----------|-------|
- 1 自分のチームメイトとうまくコミュニケーションがとれた 5-----4-----3--2---1:
- 2 授業外にもチームメイトと頻繁にコミュニケーションをとった.. 5-----4-----3--2---1:
- 3 教員と頻繁に質問などのコミュニケーションがとれた..... 5-----4-----3--2---1:
- 4 教員に対して抵抗がなく質問することができた..... 5-----4-----3--2---1:

問 7 授業で利用した教材（テキストやワークシート）について、あなたの考えについてお答えください。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

- | | | | | | | | |
|--|-----------|------------|-----------|-------|----------|----------|-------|
| | 全くあてはまらない | あまりあてはまらない | どちらともいえない | あてはまる | どちらかといえば | とてもあてはまる | 回答欄 ↓ |
|--|-----------|------------|-----------|-------|----------|----------|-------|
- 1 テキストはデータより紙で配付してほしい5---4---3---2---1:
- 2 テキストはワープロ形式よりもパワーポイントのほうが
見やすいと思う5---4---3---2---1:
- 3 ワークシートは私の理解を助けている5---4---3---2---1:
- 4 自分のチームが作成したワークシートをあとから参考にして
さらに自分の学習を深めることができた5---4---3---2---1:
- 5 他チームが作成したワークシートを参考にして
さらに自分の学習を深めることができた5---4---3---2---1:

問 8 あなたが授業で得られた成果と思うことについておうかがいします。あなたにとってどの程度あてはまりますか。最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

とてもあてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	回答欄 ↓
----------	---------------	-----------	------------	-----------	-------

- 1 これまで気づかなかった自分の長所や短所に気づいた.....5----4----3----2---1:
- 2 自分の進路について考えるきっかけとなった5----4----3----2---1:
- 3 この授業によって以前と違う学習に対する考えをもった5----4----3----2---1:
- 4 この授業で教員の教える内容に含まれていないアイデアを生むことができた5----4----3----2---1:
- 5 問8の4で4または5と答えた人は、そのようなアイデアが次の何から生まれていると思いますか。下記の中から数字で回答して下さい。回答欄→:

- 1: 学生同士のコミュニケーション
- 2: 教員と学生のコミュニケーション
- 3: 学生と教員のコミュニケーション
- 4: それ以外

この授業の内容や方法についてうかがいます。

問 9 授業について、あなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

とてもそう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	そうは思わない	全くそうは思わない	回答欄 ↓
---------	--------------	-----------	---------	-----------	-------

- 1 この授業には興味を持っている5----4---3---2---1:
- 2 この授業では、発言や提案する機会が与えられているので
おもしろかった5----4---3---2---1
- 3 この授業が好きである5----4---3---2---1
- 4 教室を離れても、この授業の演習の進め方について、
自分なりに考えることがよくあった5----4---3---2---1
- 5 授業時間外にも、この授業で役立てるための勉強をしている...5----4---3---2---1
- 6 授業時間外にも、思いついた課題のアイデアを

- メモすることがよくあった 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 7 私はこの授業においてチームでの決定に参画していると思う ... 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1
- 8 この授業は私に合っていると思う 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1

問10 あなたのチームについて、あなたの考えに最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

回
答
欄
↓

全くそうは思わない
そうは思わない
どちらかといえば
どちらともいえない
そう思う
どちらかといえば
とてもそう思う

- 1 自分のチームに対して、心情的な親しみを覚えた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 2 自分の価値観とチームの価値観が非常に似ていると思う 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 3 自分のチームは、自分が授業に参加する上で
非常に意義のある存在だった 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 4 私はチームとして授業を受けることがとても大切だと感じて
いるので、自分のチームに留まり授業に参加することに対し
て義務を感じた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 5 自分のチームメイトに対して競争心があった 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 6 他のチームよりもいいものを作成したいと思っていた 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:

問 11 以下にあげるそれぞれの項目について、授業の担当教員に当てはまる程度に最も近いと思われる数字を回答欄に記入して下さい。

回
答
欄
↓

全くそうは思わない
そうは思わない
どちらかといえば
どちらともいえない
そう思う
どちらかといえば
とてもそう思う

- 1 学生の気持ちや立場を大切にしている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 2 学生の悩みや不満を理解している 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 3 いったん出した課題は学生に必ず実行するように求めている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 4 学生の力からみて、ぎりぎりいっぱい仕事を要求している 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 5 従来のやり方にとらわれず、新たなやり方を試みている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 6 将来のビジネスの方向性について、機会をみては語っている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 7 学生と親密な立場で授業を行っている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:
- 8 課題、レポート、テストなどの成績について、
明確な基準を持っている 5 --- 4 --- 3 --- 2 --- 1:

問 12 今回のコースを受講して、改善して欲しい点や、その他の意見がありましたら記入してください。

(自由記入欄)

出席をもっとちゃんととった方がいいと思います。

あと少しですので頑張ってください。

あなたの経営に関する理解についてうかがいます。

問 13 あなたの経営に関する理解について以下の項目のうち、正しいと思うものすべてに○をつけてください。

回答欄

↓

1. ビジネスプランニングとは、ビジネスプラン（事業計画）を立案することである。
2. 事業計画は、毎月新しいものをゼロから作らなければならない。
3. ビジネス・プロセスとは、製造メーカーが製品をつくる活動そのものをいう。
4. ROA とは、お客様の満足度を表す指標である。
5. SWOT 分析とは、企業の強みと弱みだけについて徹底的に分析することを指す。
6. 円高になると、海外へ製品を輸出している企業の利益は増加していく傾向がある。
7. SCM とはサプライチェーンマネジメントの略語であり、自社内のマネジメント方式の分析を行うことである。
8. BPR とは企業利益の最大化を目的として、ビジネスプロセスを再構築することである。
9. 5W1H は、What, Who, Whom, When, Where, How のことである。
10. ブレーンストーミングを行う上では、皆の意見と調和するように配慮しながら考える必要がある。
11. 問題とは「現状とあるべき姿（目標）とのギャップで、困っている現象や事柄のこと」であり、課題とは「達成すべきこと（テーマ）」である。
12. 4C 分析における 4C とは、Customer, Competitor, Corporate, Co-operator のことを指す。
13. ビジネスプランとは「経営者の夢（将来のあるべき姿）」を実現するシナリオという見方もできる。
14. ポジショニング・マップにおける問題児とは、市場としては市場成長率が高いにもかかわらず、自社の相対的マーケットシェアは低い状況にある商品のことをいう。
15. CSF とは Critical Success Factor の略である。
16. コトラーの 4P とは、Product, Price, Purchase, Promotion のことをいう。

17. ビジネス戦略とは企業がシェアの最大化を達成するために特定の事業分野、もしくは製品市場分野において競争企業に対して差別的な優位性を確立するための基本的な構想である。
18. BTO とは Build To Order の略である。
19. M. ポーターの 5 大競争要因とは、新規参入の脅威、代替製品・代替サービスの脅威、売手の交渉力、供給者の支配力、既存競合者同士の敵対関係のことをいう。
20. 戦略とは What（目的／考え方／ビジョン）をいい、戦術とは Why（手段／オペレーション）のことをいう。
21. ビジネスとは、「一定の目的と計画とにもとづいて経営する経済的活動」をいう。
22. ビジネスのアイデアさえよければ、ビジネスプランを書かなくても、容易に経営者や資金提供者から事業に必要な経営資源を得ることができる。
23. ビジネス戦略を考える上では、1 点の最適化をはかるように考えるべきである。
24. コトラーは、マーケティングを「個人や組織の目的を満足させる交換を創出するための、アイデア、財、サービスの概念形成、価格設定、プロモーション、流通を企画し、実行する過程」と定義している。
25. バランスト・スコアカードの 4 つの視点とは、財務的視点、顧客の視点、サプライチェーンの視点、学習と成長の視点のことをいう。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

お手数ですがこの結果をメールの添付ファイルで下記までお送りください。

このアンケートの終了で評価をつけたいと思います。ただし、アンケート結果は評価には反映しません。アンケートを出したことが反映されます。

kaino@mue.biglobe.ne.jp 戒野敏浩@青山学院大学